むすび

前年と同じく上野動物園内の厩とロバ小屋で、夜間吸虫管法により週1回宛蚊を採集した。採集実数は1951匹で1人1時間の最高採集数は8月15日の868匹で、1951年のそれと略々等しく、1950年49年の凡そ $\frac{1}{3}$ であつた。この減少は東京における蚊の減少を意味するであろう。*C. trit.*の“山田の頂”は8月15日で例年より約10日余遅れた。*C. pip.*は殆んど1年を通じて採集された。*C. trit.*は7月末より8月中旬に、*A. vex.*は6月下旬より7月初旬に、*Anoph. hyr.*は7月下旬に多く採集された。*A. vex.*と*Anoph. hyr.*は2つの山を描いた。各種蚊の採集数、雄率及び吸血率に一定の週期を以て上下することが認められる。

文 献

- 1) Mitamura, T., Kitaoka, M. and Imai, M.: Seasonal occurrence of mosquito and its infectivity of Japanese B encephalitis virus in Okayama City 1942. Relationship between the grade of epidemic and the infectivity of mosquito. J.M.J., 3(3): 149-159, 1950.
- 2) 北岡, 三浦他: 東京附近の蚊の消長(昭和23年)と動物の好き嫌い, 公衆衛生学雑誌, 6(3): 138-143, 昭24.
- 3) 北岡, 三浦, 緒方, 垣内: 昭和24年の東京における蚊の季節的消長, 医学と生物学, 16(6): 325-328, 昭25.
- 4) 北岡, 三浦, 緒方: 昭和25年の東京における蚊の季節的消長, 医学と生物学, 19(6): 258-261, 昭26.
- 5) 北岡, 緒方, 江間: 1951年東京における蚊の季節的消長, 医学と生物学, 22(5): 206-209, 昭27.
- 6) 北岡, 三浦, 緒方, 垣内: アカイエカの一斉翅化について, その推定法と昭和24年の東京における観察, 医学と生物学, 17(2): 68-71, 昭25.
- 7) 北岡, 三浦, 緒方: アカイエカの一斉羽化について, (第2報), 昭和25年の東京における観察, 医学と生物学, 20(3): 93-95, 昭26.
- 8) 北岡, 三浦, 緒方, 江間: アカイエカの一斉羽化について, (第3報), 1951年の東京における観察, 医学と生物学, 23(5): 179-181, 昭27.

岡山市に於ける1952年度日本脳炎

流行と蚊の燈火採集成績に就いて

On the incidence of Japanese B encephalitis and
the mosquitoes collected by light-trap at Okayama in 1952

山口 左 伸¹⁾ 稲 臣 成 一¹⁾ 木 村 道 也¹⁾

Satyu Yamaguchi, Seiichi Inatomi and Michiya Kimura

*過去2年に引き続き本年も同一要領によつて採集し、且つ集計考察した。採集総数は5364匹で内雌は2634匹であつた。なお過去の成績とも比較してみた。

アカイエカは当初より最終日迄概ね常に採集された。その最も多数出現したのは6月中下旬で、昨年度の7月上旬一昨年度の7月上中旬の山に対しては10乃至20日程早い。又日計曲線よりコガタアカイエカとの交叉点を求めると、6月下旬並びに9月中旬となり概ね昨年度同様であるが、始めの交叉はそ

1) 岡山大学医学部寄生虫学教室

* 山口左伸, 稲臣成一, 木村道也(1951)

岡山市に於ける1951年度日本脳炎流行と蚊の燈火採集成績に就いて, 衛生動物, Vol. 2 Nos. 2・3 p. 66-67.

岡山市に於ける過去3年間の日本脳炎発生状況と
コガタアカイエカの燈火採集成績

岡山市に於ける日本脳炎発生状況と蚊の燈火採集成績

れでも約10日程遅いようである。なお一昨年は10月初旬に見られているから本年は大分早かつたわけである。

シナハマダラカに於ては、5月23日以降概ね常に1乃至3匹で極く少数ずつ採集され僅に9月始め約2週間採集されなかつただけであり、山も亦遂に形造られないで終っている。

コガタアカイエカは本年は5月23日始めて3匹採集されてから9月23日の2匹を最後としているが、その最盛期は7月上旬より8月末迄の2カ月で、集計百分率よりみると概ね5%前後の線を描き8月11日389匹14.74%を最高峰としている。この最盛期の期間的關係は概ね昨年度の山に近い。一方活動期間よりみるときは昨年の5月29日に比し約1週間早く出現しているが、終末は昨年10月11日、一昨年10月12日であるから共に約20日早い。又コガタアカイエカの本年の採集数は昨年の $\frac{1}{4}$, 1昨年の $\frac{1}{8}$ に過ぎない。

いが、この原因が那邊にあるかは結局自然現象に帰する外はないと思われる。即ち天候方面に於ては本年は一般に降雨のあつた日が多く6月に18日、7月には雨量もやや多く17日を数え、9月にも亦14日をみている。又気温に於ては25°Cを越えた期間は約2カ月で昨年とは概ね同日数だが、1昨年の9月中旬迄2カ月半には及ばない。即ち6乃至7月に於ける降雨日の多数と25°C以上のコガタアカイエカの最もよく発生活動する期間の短縮等に由来するものとも考えられる。

一方又日本脳炎患者の発生は割合に多く20名を数え、コガタアカイエカの減少に対し全く逆比例の有様である。然しコガタアカイエカが日計百分率に於て80%を越えたのは7月上旬乃至9月上旬であり、集計曲線よりみても活動が最も盛であつたのは7月乃至8月であつた。患者の発生は8月13日以降に多発し、9月18日を以て終熄しているが、例年の通り最盛期に入つて後約1カ月、且集計曲線の最高峰後に多数発病しており、これは昨年並びに1昨年と同様である。

然しコガタアカイエカの発生数の激減と患者の多発、この相反する2の現象且つ又その発生数と天候との關係、これらが如何に説明されるべきか、これは今後毎年行われる成績を待つて結論を得たいと思う。